

JILPT 調査シリーズ

No.30

2007年2月

# 「団塊の世代」の就業と生活ビジョン調査結果 －「団塊の世代」の就業・生活ビジョンのベンチマーク－

The Japan Institute  
for  
Labour Policy and Training

独立行政法人 労働政策研究・研修機構



「団塊の世代」の就業と生活ビジョン調査結果  
－ 「団塊の世代」の就業・生活ビジョンのベンチマーク－

## まえがき

いわゆる「団塊の世代」の先頭集団（昭和 22 年生まれ）が本年（平成 19 年／2007 年）には 60 歳台入りをし、いよいよこの世代のいわゆる高齢・引退過程入りが始まる。このことを背景に今後のわが国経済社会の行方をめぐって種々の議論が交わされている。楽観、悲観、あるいは中立いずれをとるにせよ、その動向は「団塊の世代」の人々の考えや生活設計に大きく依存することは間違いのないところである。

このため、労働政策研究・研修機構においては、これらのことを明らかにするために基礎となるデータを広く提供するとともに、適宜の分析を通して「団塊の世代」の今後における高齢期の就業や生活の方向性に関する一つの試論を提供し、政策担当者を始めとして関係者における議論の活性化を図ることを目的として、前年に当たる平成 18 年（2006 年）において、「団塊の世代」を対象に今後の引退過程における就業をはじめとする生活設計や見通しなどについて調査研究を行うこととした。

この調査シリーズNo.30 は、当該調査研究の一環として実施したアンケート調査『『団塊の世代』の就業と生活のビジョンに関する調査』（平成 18 年 10 月実施）の結果を概説したものである。今後このデータを活用して更なる分析を加え、その結果を別途研究報告書にとりまとめることとしているが、この問題の喫緊性にかんがみ、調査データとそこから容易に読み取れる特徴のみをとりあえず整理して公表することとしたものである。

調査にご協力いただいた皆様にあらためて感謝申しあげるとともに、この調査シリーズが、この問題に関心を持たれる方々によって広範囲に活用されることを期待し、また願うものである。

2007 年 2 月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 小 野 旭

執 筆 者

氏名 所 属

あきお 浅尾 ゆたか 裕 (労働政策研究・研修機構主席統括研究員)

# 目 次

<b>第Ⅰ部 調査の概要</b> . . . . .	1
第1章 調査の目的と対象、調査方法 . . . . .	1
第2章 調査内容とそのねらい . . . . .	5
2-1 調査票の構造 . . . . .	5
2-2 特徴的な調査項目のねらい . . . . .	6
(付)『団塊の世代』の就業と生活のビジョンに関する調査」調査票	
1. 「団塊の世代」本人を対象とした調査（本人調査） . . . . .	13
2. 「団塊の世代」の妻を対象とした調査（妻調査） . . . . .	27
<b>第Ⅱ部 調査結果の概要</b> . . . . .	38
第1章 回答者の属性 . . . . .	38
第2章 「団塊の世代」のこれまでの仕事・生活の経過・来歴 . . . . .	48
第3章 「団塊の世代」の仕事に関する現状と技能継承 . . . . .	62
第4章 「団塊の世代」の今後の就業見通し . . . . .	69
第1節 定年と現職での就業継続の見通し . . . . .	69
第2節 今後10年間における就業（ボランティア活動を含む）の希望・見通し . . . . .	78
第5章 「団塊の世代」の妻からみた生活の状況 . . . . .	89
第1節 妻たちからみた結婚と生活 . . . . .	89
第2節 妻たちの職業経歴 . . . . .	99
第3節 妻たちの今後における就業（ボランティア活動を含む）の希望・見通し . . . . .	105
第6章 「団塊の世代」の今後における生活の見通し . . . . .	110
第1節 生活における課題、不安項目 . . . . .	110
第2節 高齢期の住まいの希望・見通し . . . . .	113
第3節 「老後資金」の準備状況と高齢期における家計収支見込み . . . . .	118
まとめ . . . . .	124
<b>集計結果統計表</b> . . . . .	127